

10th 歩みの先へ

綾和会理念

Mission (わたしたちの使命)

「人に寄り添い、
地域のために信頼される医療を提供する」

Vision (わたしたちの未来構想)

「地域との絆を深め、
誰もが安心して暮らせるコミュニティの未来を拓く」

Statement (わたしたちの決意)

「常に新しい課題に挑戦し、革新する」





この場所で積み重ねてきた10年を振り返ると、
そこには、いくつもの選択と迷いがありました。

何もないところから始まった開院の日。
人の経験や判断に頼っていた業務を、病院としての仕組みに整えていった日々。
地域の声に応えるために、病棟や在宅医療、介護の機能を広げていく挑戦。
そして、心も身体も限界に近づく中で、それでも医療を届け続けたコロナ禍。

その出来事の中で、私たちは少しずつ変わっていきました。
ただ病気を診るだけでなく、その人がどう暮らし、どう生きていくのかに寄り添うこと。
患者様、ご家族、地域、そして共に働く仲間の存在を、医療介護の中心に置くこと。
その積み重ねが、掛川東病院の10年を形づくってきました。
振り返れば、支えになっていたのは、いつも人でした。

誰かに助けられた記憶。
一緒に乗り越えた時間。
「この人たちとなら、何とかなる」と思える信頼。
そうした一つひとつが、この場所を支えてきました。

そして今、私たちは次の10年を見つめています。

地域に必要とされる病院であること。
患者様や利用者様が、その人らしく過ごせる時間を支え続けること。
外に出て季節を感じる時間や、誰かと笑い合う日常を大切にすること。
多様な人が働き、自分らしく力を発揮できる場所であること。

この10年の歩みの先にあるのは、特別な未来ではありません。
地域の中で、人と人がつながり、支え合い、安心して暮らし続けられる日常です。

これまで紡がれてきた物語は、
これからも地域の日常を支える力につながっていきます。



歩みの先へ

OUR HISTORY

何もないところからの出発

2015/4

- ・掛川東病院 開院
- ・介護老人保健施設 桔梗の丘、通所リハビリテーション 開設
- ・木村正人医師が院長に就任

2015/5

- ・回復期リハビリテーション病棟 開設
- ・漢方外来 開設

2015/6

- ・リハビリテーション外来 開始

建物もベッドもある。けれど、患者様はいない。この場所で積み重ねてきた時間は、まさに何もないところからの出発でした。ルールも設備も、仕事すらない状況で戸惑いながらも、「ここから自分たちでつくっていく」という期待もありました。



最初は本当に何もないところからのスタート

でもワクワクの方が大きかった 患者様もいなくて、
これで給料もらっていいのかな 西(病棟)はガラガラ
って思ってた 患者様より、職員の方が多くいた日もあった

2015
開院

揺らぎの中で進めた組織づくり

2016/7

- ・訪問リハビリテーション 開始

2017/3

- ・掛川市と地域リハビリテーション支援に関する協定 締結

2018/4

- ・飯田貴之医師が院長に就任

開院から数年が経ち、地域の医療を安定して支え続けるために、組織体制や働き方の見直し、採用の強化を進めました。それは現場にとって戸惑いを伴う変化でもありましたが、病院としての基盤を整えていくために必要な時間でもありました。



2016
形成

通らなくなった
勝ちだったのが
言ったもん
なんでこんなに変わるの？
って思ってた
急にルールが入ってきて
やりにくかった
だんだん
働きやすくな
ったのは事実

型にはまらないリーダーシップと、医療観の広がり

2019/6

- ・掛川東病院介護医療院 開設
- 2019/9
- ・在宅診療部 開設

2019/10

- ・多職種連携会「さてつ」初開催
- ・地域包括ケア病棟に転換
- 2019/11
- ・宮地紘樹医師が院長に就任

介護医療院、在宅診療部、地域包括ケア病棟が始まり、病院の役割は大きく広がっていきました。同じ頃、現場に入り地域連携を重視するリーダーが生まれ、職員の中にも「ただ病気を治すだけでなく、その人らしい生活に寄り添う」という医療観が少しずつ育っていきました。



こんな若い院長来るの？
院長ってこんなに動くんだって思った

家族の思いとか、その人らしさとか、
そこまで含めて支えるのが大事
生活ベースで、その人がどう過ごしやすいかを
考えるようになった

2019
転機

最大の試練と、それでも続いた現場

2020
コロナ

2020/10

- ・広報誌「そうせい」創刊

2021/3

- ・掛川市と持続可能なまちを目指し、包括連携協定 締結
- ・コミュニティ・ホスピタルの取り組みを本格化

2022/7

- ・院内クラスター対応を契機に、感染対策体制強化

2022/12

- ・職員・事業所向けイベント「ざつだん」初開催

新型コロナウイルスへの対応は、病院にとって最も大きな試練の一つでした。感染への不安、家族への心配、現場の逼迫。誰もが限界に近い中で、それでも地域を支える役割から目を背けることはできませんでした。



一緒に
乗り越えた
っていう
感覚がある
戦友
この人たちとなら何とかなると思えた
言えなかつた
しんどいつて
毎日ギリギリだった
正直、逃げたいと思
ったこともある
って感じ

でも誰も逃げなかつた

地域へ飛び出す、戸惑いと躍進

2023/1

・掛川東病院デイサービスセンター 開設

2023/4

・静岡県より静岡県地域リハビリテーション支援センターに認定

2023/9

・希望の丘マルシェ 初開催

コロナ禍を乗り越えた後、病院は地域へ向けた活動を広げていきました。現場には戸惑いもありましたが、地域の人と出会い、場を重ねる中で、病院の役割は少しずつ外へと広がっていきました。同時に、職員同士の連携や介助負担を支えるための仕組みづくりも進み、外への挑戦と現場の改善が並行して動き始めた時期でもありました。

やる意味あるの？

現場こんなにきついのにって思ってた

でも終わったら楽しかった

地域の人

こんなに来るんだって思った

2023 地域の人と話すのが当たり前になった

挑戦



私がここにいる理由



2026/1

・子育てに優しい事業所 認定

10年の間に、病院も職員も大きく変わってきました。日々の忙しさや迷いの中でも、この場所には、誰かに助けられ、誰かを支えてきた時間があります。働き続ける理由は、制度や役割だけでなく、一緒に働く仲間との良好な関係性が大きく影響していました。

辞めようと思ったことはある

この人たちだから続いている

誰かがフォローしてくれる

安心感がある

やっぱり人だと思う 特別じゃないけど
2026 続けられる場所

現在



2025

実り

積み重ねた信頼が、
評価へ

2025/1

・ケアマネ地域医療なんでも相談会 初開催

2025/4

・掛川市と持続可能な地域共創に関する連携協定 締結

・小児リハビリテーション外来 開始

・掛川東病院・介護老人保健施設桔梗の丘 10周年

2025/7

・ELDERCARE INNOVATION AWARDS 2025 受賞

・病院機能評価 3rdG:Ver.3.0 認定

地域との絆を深める取り組みと、医療・介護の質を高める日々の積み重ねが、少しずつ形になっていきました。この時期の受賞や認定は、患者様や地域に向き合い続けてきた歩みが、外からも評価された証でもありました。



やってきたことは
間違ってたか
と思えた

昔と全然違う病院になった

機能評価はめちゃくちゃ大変だった
でも終わった後、明らかに変わった

Future

未来

こんな病院でありたい

そして今、私たちは次の10年を見つめています。変化はこれからも続いていきます。地域に必要とされ、一人ひとりがその人らしく過ごす時間や、生活の楽しみを支えられる病院でありたいと考えています。

胸張って
ここで
働いてる
って言いたい

いろんな人が働ける
場所がいい
昔みたいに
ピクニックに行ったり、
お花見に行ったり、
ほうれん草を育てたりする
楽しみを取り戻したい



いい病院だよなって言われたい
楽しく働けるのが一番